

2017 Wako's

Super Kart Race Report

開催コース/岡山国際サーキット(岡山県)
主催/日本スーパーカート協会
開催日/11月26日(日) 天候/晴 路面/ドライ



東 西で開催されるスーパーカートシリーズのランキング上位選手が集結し、その年で一番速いやつを決める、それがスーパーカート日本一決定戦だ。

ただでさえレベルの高い選手層となるこのシリーズ、そのチャンピオンクラスの選手が一堂に会するだけに、各選手たちが要所で見せるテクニックは目を見張るものばかりだった。

SK1・SK2・SK3・SK4 表彰台

※並びは左から2位1位3位となります



SK1 表彰式。無敵の大王こと吉野はマシントラブルに泣かされながらも2位に入る



SK2 表彰式。前戦同様にとにかく神の速さが際立つ大会となった



SK3 表彰式。接戦に次ぐ接戦。最後は写真判定というギリギリのベストバウトだった



SK4 表彰式。トップ常盤の横から顔を出しているのは前年ウィナーの息子、翔太君



今年はトラブル続きで辛いシーズンだったSK1 保立翔だが、最後は快勝し「今年を綺麗に締めくくれました」と笑顔をみせた



岡山最終戦で見た驚異のスピードは今レースでも健在だった。2018年はスーパーFJへとステップアップ予定だというSK2 神



岡山最終戦に続いての勝利を飾った藤澤。今回は思い切り楽しむことをモットーにしたといい、素晴らしい接戦を見せてくれた



SK4 ウィナーの常盤。前大会では息子の翔太が同クラスで日本一に輝いていることから、親子で連勝という快挙を達成した



恒例の前夜祭は今年もサーキット内のレストランで開催。タイヤなどの豪華賞品が当たるビンゴ大会は大盛り上がりだった



SK3 クラス、僅差で敗れた2位の大宅晴郎。トップ藤澤との差はほぼ皆無。オフィシャルからは記念にと判定写真が贈られた

2017 Wako's

Super Kart Race Report

開催コース/岡山国際サーキット(岡山県)
主催/日本スーパーカート協会
開催日/11月26日(日) 天候/晴 路面/ドライ



WAKO'S 岡山シリーズ 地方選手権 第6戦



誰も寄せ付けられない素晴らしい走りを最後まで維持した保立がSK1を勝利する



SK2に登場した神。その圧倒的なパフォーマンスはさすが元全日本選手



開幕戦でレコードを記録、最後は優勝で締めくくる最高の1年だったSK3 藤澤



エンジンからオイルがにじみ出るトラブルがあるもSK4を制した常盤秀樹

全6戦で開催されてきた岡山シリーズも今回が最終戦。小春日和の穏やかなコンディションのなか、午前中に決勝のスタートは切られた。

午後からは日本一決定戦が開催されることから、今回は東地域からの遠征組も多数参戦しており、フィナーレに相応しい賑やかなレースとなる。

そんなレースを終始、リードしたのは東からの遠征組、保立翔だ。抜群のスタートを決めると、2位以下に圧倒的な差をつけての勝利を手にする。レース後、「トップでゴールできて良かったです。まだ日本一決定戦があるので、気は抜けません」とコメントし臨戦態勢を保つ。

SK2では元全日本ドライバーの神晴也が上級クラスをも喰ってしまうような激走。2位に13秒以上の大差をつけて、ひとり違うクラスかのような走りを見せての完璧な勝利。神も次の日本一決定戦を意識したといい、5日目からはほとんど流す程度でキープしてマシンを温存したというのだから凄まじい。

接戦が繰り広げられたSK3は藤澤正治が逆転勝利。ライバルでもあり旧知の仲でもあるという大宅晴郎とのマッチレースを制して最終ウィナーに輝いた。



JAPANKART CUP 岡山ラウンド

開催コース / 岡山国際サーキット (岡山県)
 主催 / 日本スーパーカート協会
 開催日 / 11月25日 (土)
 天候 / 晴れ 路面状況 / ドライ
 Report&Photo / 月刊 JAPAN KART



レース終盤にベストラップとなる1分51秒953をマーク。集中力を途切らせることなく60分間を一人で走り切り総合優勝の平井



表彰式はブリーフィングルームで行われた。中央に平井 (YZ85 クラス)、左は2位の河下茂 (MAX クラス) で右が田村国王 (YZ125 クラス)

今 シーズン最後のジャパンカートカップは、今年も岡山国際サーキットで開催された。これは毎年恒例のイベントともなっており、翌日にはスーパーカート日本一決定戦も行われる。

昨年同様6台のエントリーとなり、そのなかには中学生の若手新鋭ドライバーや、全日本に参戦する兄弟選手といった注目選手の姿もみられ、レベルの高い白熱したレースが展開、激しい接戦が繰り広げられた。

総合トップを獲得したのは Team Garage.g に所属する中学生の若手ドライバー平井勇太だ。ちなみに平井は昨年、まだ小学6年生だったときに今大会でサーキットデビューした選手でもある。

昨年はエンジントラブルから、ほとんど走ることが出来なかっただけに、今年はその鬱憤を晴らすかのような素晴らしい走りを披露。格上のクラスを差し置いて30周を走破し、総合トップを獲得した。2018年はフォーミュラも視野に入れつつスーパーカートに挑戦予定だという平井、今後の活躍が期待される選手だ。